

店頭から  
「こんにちは」

第70回

# 自然現象で心も不安定に 成り行き任せでいくしかないときも



パニックを起こし、薬局の中で騒ぐ方が。  
みな、驚いている中、段々と落ち着いてきて――。

## 心配でしんばいで…

俳句がお好きな50歳代の女性。

景色や花などの自然現象を、細かく感性で捉える才能に長けた方という印象があります。

生活習慣をうかがってみると、例えば洗濯物を干すとき、ボタンのある側が全部同じ方向に向いていないとダメというのです。

だから、ご主人が干してくれた洗濯物も、自分のルールに沿っていないと気に入らない。結局、自分で最初からやったほうがスッキリするという始末です。

ある日のこと。遊園地のコーヒーカープに乗っているようなめまいがしたといいます。めまいが、また起こるんじゃないかと心配になり、それが原因でパニック症状を毎日起こしていたのです。

ようやく起きられるようになったので、医院にかかりましたが、2つの医院では、同様のめまい止めのおクスリが処方されて、「耳の耳石のせいでしょう」といわれました。

手の指がちゃんと動くか、ろれつは回っているかを確認されて、頭部のCTで撮影したものの、脳梗塞などの疑いもないとのこと、来局されたのです。

## 自然現象も影響を

この方の具合が悪かったのは、台風が日本に近づき、気圧の変化がすごく激しいころでした。

他にも何人か、具合の悪い人が来られて、「自然現象の中で生きている、我々の宿命」とお話ししていたところだったのです。

「こんなときは、休んでいるのが一番。耳石が原因といわれても、耳石をとってしまう治療法はない。病院回りをしても、自然現象を覆すわけにはいかないのだから、成り行き任せにするしかないですね」

そうお伝えし、納得していただきました。

この女性は、ちょうど一昨年と同じ時期、薬科大学の5年生が、私どもの薬局に実習で来ていたとき、「先生、死ぬかもしれない、息をするのが苦しくて、心臓がドキ

ドキする」と騒いでいた方です。

そのときは、顔色と状態を観察して、パニック症候群とすぐに感じ取り、手を握りました。

「死なないから大丈夫、ゆっくり呼吸して。はい、イチ、ニイ、サン…」

すると、段々に、私の顔を見る余裕が出てきて、「ああ助かった」と涙ぐんでいました。

その間、店内にいた人たちは、ビックリして、言葉ひとつ発することができませんでした。

呼吸と声かけ、また手を握るなどは大切なことだと、学生さんには、いい勉強になっただろうと思います。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表  
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ  
宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「スポーツに適した季節ですが、適度に行ってください」

